

1 インタビュー ● 濱谷 和生 先生 【学長補佐/FD委員長】



濱谷和生 学長補佐/FD委員長

甲南大学ができる教育、 なすべき教育について、語り合いたい

本年度より甲南大学のFD委員長に就任した濱谷和生先生に「甲南大学の教育」をテーマにインタビューを行いました。

Q1 甲南大学の学生について、 教育の面で何か気になることは ありますか？

まず甲南の学生は勉強時間が足りないのではないかと感じています。2011年11・12月に行われた5大学調査*でも、北海道大学、大阪府立大学、同志社大学、関西学院大学と比較して、甲南大学の学生は勉強時間が短く、アルバイトの時間が多いという結果が出ました。また、大学での学び方を知らないまま授業を受けている学生や、大学で学ぶ目的意識が低い学生も少なからずいる気がします。

Q2 そんな甲南大学の学生をどの ように育てたいと考えているの ですか？

一言で言うと、建学精神を今日的な教育環境の中で今一度本当によみがえらせて、人物中心・人物率先教育をしたいと考えています。入学した学生が卒業するまでに、社会や人に役立つ人に育て上げることが大学の役割だと思います。社会に出てからも、勉強は続きます。社会に出てからも世界の人々と手を結

んで仕事をし、そのために自ら進んで勉強する姿勢や、目の前の難題を大きな志と先取精神を以て解決するために勉強し続けるストレス耐性など、大学教育を通して彼らが身につくように育てていきたいです。

Q3 具体的に教職員のみなさんに 期待していることは何ですか？

学生と向き合う時間をもっと増やしてほしいですね。甲南生はよく坊ちゃん、お嬢さんのイメージがある、と言われますが、素直に育っていて、人間的に信用できる学生が多いという点ではその通りだと思います。その一方、まだまだいろいろなことが分かっていなくて幼い、という面も持っていると思います。教職員のみなさんには、知識伝授だけでなく、もっと学生に手を時間をかけて内面から人物を育ててほしいと願っています。具体的には、指導主任制度やオフィスアワーを積極的に活用したり、学生に関する情報を教職員間でうまく共有したりして、教職員団として学生を育てることに取り組んでほしいです。

Q4 そんな教職員のみなさんに 対して、どのようなサポートを 考えていますか？

教育課程の体系化と教育の組織化の二つの支援を考えています。教育課程の体系化とは、大学での教育全体における個々の授業の役割や位置づけを明確にするもので、DP・CPとカリキュラムとの関係、カリキュラムにおける各科目の体系的な位置付け（カリキュラムマップ）、科目間の学修上の順次関係（ナンバリング）などの明確化を指します。この教育課程の体系化を進めるのに必要な学部内や個々の教員間での話し合いを促すための仕組み作りが教育の組織化です。今般、部局長会議構成員を主たるメンバーとした教育改革会議を発足しようとしています。

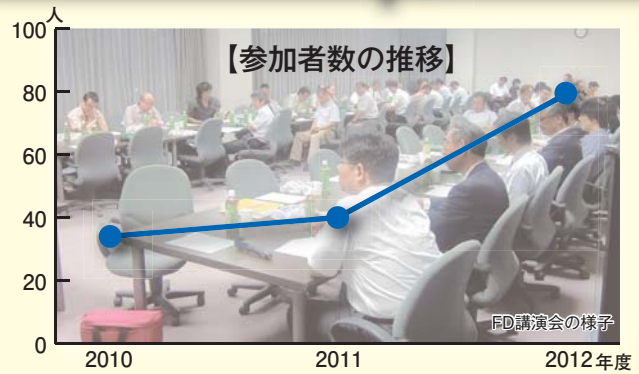
Q5 最後に何か一言お願いします。

今日の時代に甲南大学ができる教育、なすべき教育について、多くの教職員のみなさんと語り合いたいと考えています。教育に対して持っている教職員の熱意と力を大きく広く結集させていきたいです。

*5大学調査：北海道大学・大阪府立大学・同志社大学・甲南大学による、文部科学省大学教育充実のための戦略的
大学連携支援プログラム「相互評価に基づく学士課程教育質保証システムの創出—国公立4大学IRネットワーク」
に関西学院大学を加えて2011年11～12月に行われたアンケート調査。

2 学内FD講演会 開催報告 ▶2012年9月20日(木)

自然科学研究科、フロンティア研究推進機構、FD委員会の共催によりFD講演会が開催され、79名の教職員が参加しました。



第1部

テーマ 今日の大学教育に求められるもの～学校教育の授業方法から～

●講師 古川 治 教授 (甲南大学 教職教育センター)



教職教育センター
古川 治教授

大学教育と(小中高等)学校教育との違いは何か、そして大学教育に何が欠けているのか。学校教員は教員免許状を有し、採用前には教育実習、採用後には授業研究会等を通じて、批評を受けて授業を改善することを習慣化しています。それに対して、教員免許状を必要としない大学教員は、採用までに教育方法等について学ぶ機会がなく、採用後も授業をオープンにして批評を受けるといった授業研究の機会がないのが通常です。今日の大学教育には、「授業リフレクション」が求められ

ていることを、具体例を交えてご提示くださいました。

学校教育と大学の専門教育との教育目的や内容の違い、研究活動もあわせて本職とする大学教員の性質を鑑みると、大学教員が学校教員と同等の「訓練された免許運転」を目指すのは困難ではありますが、授業準備の心得や教育目標の考え方、確かな授業指導観・授業技術を取得することなど、学校教育の授業方法から学ぶことは多く、大学教員に意識変革が求められていることを認識させられるご講演でした。

第2部

テーマ 科研費獲得の方法とコツ：書き方次第でこんなに違う！

●講師 児島 将康 教授 (久留米大学分子生命科学研究所)

科研費の獲得については、近年新規採択率が上がったとはいえ、配分額は年々減少しているなど、まだまだ厳しい状況にあります。そのような中で、いかにして科研費に採択されるか、そのためにいかにしてわかりやすく読みやすい申請書を作成するかについて、申請書の実例等を使って

丁寧に教授いただきました。

全国的にも高い新規採択率を誇る本学ですが(2012年度の科研費新規採択率が45.7%で全国7位)、外部資金の獲得に対する本学の出席者の意識も高く、一様に児島教授のご講演に熱心に聴き入りました。



久留米大学分子生命科学研究所
児島 将康教授

次回は12月8日(日)に
学内FDワークショップを開催！

日時 2012年12月8日(土) 10:00～14:30

場所 甲南大学西宮キャンパス(CUBE)

申込方法 My KONANかメールで申込み【締切：12月6日(木)】

- コーディネーター マネジメント創造学部 パーマー・ロジャー先生 / ジョーンズ・ブレント先生
- テーマ **Creating Significant Learning Experiences**
～学生が主体的に学ぶ授業設計とは～

FDワークショップは、学生の能動的な学修を促す教育方法を体験したり、学生に関する傾向や情報、教育における悩みなどを共有し、教員同士の交流を深めていただくことを目的としています。

今回は、具体的なコースデザインの方法を考えます。15回の授業終了後、あるいは1年か2年ほど経って、その授業での学習経験は、学生たちの人生に本当に意義のある

ものになっていることを、教員のドリームとして思い描きながら、デザインすることが大切だと、L.ディー・フィンク氏(オクラハム大学教授開発プログラムセンター長)が説いています。どの学部にも共通する「基礎演習(ゼミ)」を素材にして、学習目標の立て方、到達方法などのコースデザインを、コーディネーターと一緒に、創りあげていきます。ぜひご参加ください。

さらに詳しい
情報・報告は
ホームページへ！

問い合わせ先

FD委員会ではFD活動やFDニュースについてご意見・ご要望を受け付けています。
大学企画室
TEL 078-435-2663 (内線2810) FAX 078-435-2306
MAIL kikaku@adm.konan-u.ac.jp